

中国の周辺外交におけるミドル・パワー としての豪州：中豪関係の進展と 米豪同盟への余波¹

山崎周

(青山学院大学総合研究所助手)

【要約】

台頭する中国からすると、ミドル・パワーに属する国々との関係強化は外交上の優先課題の一部になりつつある。米中間での戦略的な競争は、両国にとってのミドル・パワーの重要性を向上させる主因になっている。そして、インド太平洋地域に位置するミドル・パワーの一員として、近年の中国で注目されている国家が豪州である。

本稿では、冷戦後の中国が豪州との関係において、どのような外交戦略を展開してきたのかについての考察を行う。台頭する中国にとって、インド太平洋地域のミドル・パワー諸国の重要性が高まってきた。その中でも、特に代表的なミドル・パワーである豪州の存在感が増しつつある。中国は、米豪同盟に楔を打ち込み、豪州を自らの勢力圏に取り込もうとしているとさえ言える。なお、中豪関係については、日本もその関係を規定する要因になっており、この点

¹ 本研究の一部は、青山学院大学アリーイーグル研究支援制度の支援によって行われた。また、一般財団法人平和・安全保障研究所の日米パートナーシップ・プログラムの支援によっても行われた。両者による支援に記して感謝申し上げたい。

は過小評価されるべきではない。

キーワード：中豪関係、米豪同盟、ミドル・パワー(中等強国)、周辺外交、シャープ・パワー

一 はじめに

中国国内の国際関係研究において関心が集まっているテーマの1つは、同国とミドル・パワー(中等強国)との対外関係である。台頭する中国からすると、ミドル・パワーに属する国々との関係強化は外交上の優先課題の一部になりつつある。それだけではなく、中国国外においても、同国とミドル・パワーの関係性に関する研究が増えつつある²。2013年10月に習近平国家主席も出席して演説を行った「周辺外交活動座談会」の開催が象徴している通り³、周辺外交の文脈から、中国にとってのミドル・パワー諸国との関係が重要性を増していることは間違いなからう。

更には、周辺国との関係における対外政策の立案や実行に際して中国が最も考慮する要因は米国であることから、中国から見た場合のミドル・パワーの重要性の高まりは、米中関係のダイナミズムと

² ミドル・パワーに関する代表的な中国人研究者による文献は、例えば、丁工「中等強國與中國周邊外交」『世界經濟與政治』第7期(2014年)、頁24~41; 閻學通、齊皓等『中國與周邊中等國家關係』(北京: 社會科學文獻出版社、2015年); 戴維來『中等強國崛起與國際關係的新變局』(北京: 中央編譯出版社、2017年)。中国国外における研究成果としては、次のものが挙げられる。国際安全保障学会編「特集: 中国台頭への対応 地域ミドルパワーの視点」『国際安全保障』第39巻第2号(2011年9月); Bruce Gilley and Andrew O'Neil (eds.), *Middle Powers and the Rise of China* (Washington, D. C.: Georgetown University Press, 2014); Enrico Fels, *Shifting Power in Asia-Pacific? The Rise of China, Sino-US Competition and Regional Middle Power Allegiance* (Cham: Springer, 2016); Ralf Emmers and Sarah Teo, *Security Strategies of Middle Powers in the Asia Pacific* (Melbourne: Melbourne University Publishing, 2018); Tanguy Struye de Swielande, Dorothee Vandamme, David Walton, and Thomas Wilkins (eds.), *Rethinking Middle Powers in the Asian Century: New Theories, New Cases* (New York: Routledge, 2018).

³ 習近平『習近平国政運営を語る』(北京: 外文出版社、2014年)、327~331ページ。

も連動している。米中間での戦略的な競争は、両国にとってのミドル・パワーの重要性を向上させる主因になっている⁴。

そして、インド太平洋地域に位置するミドル・パワーの一員として、近年の中国で注目されている国家が豪州である。以前の中国では、豪州に対する学術的な関心は希薄であり、豪州についての研究は盛んではなかった。だが、近年では、豪州を取り上げる研究が徐々に増加するようになってきた⁵。その一方、日本における両国関係についての先行研究は中国研究者ではなく、主に豪州研究者によって行われてきた⁶。そのため、中国側の視点に立脚しながら中豪関係を検討する課題が残されている。それに加え、中豪関係の事例は、中国のミドル・パワー諸国への姿勢を把握するだけでなく、インド太平洋地域内の米国の同盟国に対して、中国がどのような政策をとってきたのかを理解する上においても興味深い分析対象にな

⁴ Bruce Gilley and Andrew O’Neil, “China’s Rise through the Prism of Middle Powers,” in Bruce Gilley and Andrew O’Neil (eds.), *Middle Powers and the Rise of China*, p. 3; G. John Ikenberry, “Between the Eagle and the Dragon: America, China, and Middle State Strategies in East Asia,” *Political Science Quarterly*, Vol. 131, No. 1 (2016), pp. 9–43.

⁵ Jingdong Yuan, *A Rising Power Looks Down Under: Chinese Perspective on Australia* (Canberra: Australian Strategic Policy Institute, 2014), p. 8.

⁶ その点は例えば、福嶋輝彦「対米同盟と中国市場の狭間で：中国の台頭に対応するオーストラリア」『国際安全保障』第39号2巻（2011年9月）、6～27ページ；福嶋輝彦「米中に揺れるオーストラリア：ギラード労働党政権の外交・安全保障政策を中心に」『国際問題』第628号（2014年1月）、38～46ページ；福嶋輝彦「同盟か、市場か？：オーストラリアの対中アプローチ」『主要国の対中認識・政策の分析』（日本国際問題研究所、2015年）、73～98ページ；石原雄介「米豪同盟と中国：『二重のトレンド』の顕在化」『国際安全保障』第44巻第1号（2016年6月）、30～48ページ。中国の台頭と豪州のインド太平洋へのアプローチの関係については、佐竹知彦「豪州とインド太平洋：多極化時代における新たな秩序を求めて」『国際安全保障』第46巻第3号（2018年12月）、51～70ページ。

ろう。

そこで本稿では、冷戦後の中国が豪州との関係において、どのような外交戦略を展開してきたのかについての考察を行う。それによって、中国側が対豪関係をどのように認識し、実際の政策を遂行してきたのかを解き明かすことが本稿の目的となる。ここで、本稿の議論を先取りしておきたい。台頭する中国にとって、インド太平洋地域のミドル・パワー諸国の重要性が高まってきた。その中でも、特に代表的なミドル・パワーである豪州の存在感が増しつつある。中国は、米豪同盟に楔を打ち込み、豪州を自らの勢力圏に取り込もうとしているとさえ言える。なお、中豪関係については、日本もその関係を規定する要因になっており、この点は過小評価されるべきではない。

本稿では、まず次節において、中国国内で豪州のようなミドル・パワー諸国への関心が高まってきていることを論じる。第3節において、中国にとって対豪関係が重要な理由を指摘する。第4節は、その時々の中豪関係とも照らし合わせながら、冷戦後の中豪関係を概観するものである。第5節では、中豪関係を巡る最近の情勢から、中国が米豪同盟にどのように対処しようとしてきたのかを見る。結論部では、日本の存在が中豪関係に与える影響について論及する。

二 中国におけるミドル・パワー諸国と豪州への関心

日本においては、2000年代になってから、ミドル・パワーに関する議論が活発になされるようになった。とりわけ、添谷芳秀による『日本の「ミドルパワー」外交』は、日本外交の在り方を問う一

冊として幅広く注目を集めた⁷。その後も、2011年に国際安全保障学会が刊行する学術雑誌『国際安全保障』で台頭する中国とミドル・パワー諸国の関係についての特集号が組まれるなど⁸、日本ではミドル・パワーについての研究が徐々に蓄積されてきた。以下で論じるように、中国においても、2000年代中盤以降からミドル・パワーに対する学術的な関心が高まるようになる。

中国語でのミドル・パワーの基本的な訳語は、「中等強国」あるいは「中等国家」である。ただし、「中等国家」よりも、「中等強国」のほうがミドル・パワーを指す言葉としてより多く用いられる傾向にある⁹。また、「次級国家」、「中等力量」、「中等強権」、「支点国家」といった呼称もある¹⁰。それら以外にも、後述のように、しばしば「中等大国」という表現がミドル・パワーに該当することもある。

中国において、ミドル・パワーを意味する「中等強国」が使われるようになったのは、比較的最近のことである¹¹。中国の学術論文データベースである中国学術文献オンラインサービス（CNKI）で検索した限りでは、「中等強国」をキーワードとして最初に用いた研究は、2007年のものである¹²。また、「中等国家」をキーワー

⁷ 添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交：戦後日本の選択と構想』（筑摩書房、2005年）。

⁸ 国際安全保障学会編、前掲「特集：中国台頭への対応 地域ミドルパワーの視点」。

⁹ Bruce Gilley, “China’s Discovery of Middle Powers,” in Bruce Gilley and Andrew O’Neil (eds.), *Middle Powers and the Rise of China*, p. 60.

¹⁰ 戴維來、前掲『中等強國崛起與國際關係的新變局』、頁1。

¹¹ Bruce Gilley, “China’s Discovery of Middle Powers,” p. 46.

¹² 錢皓「中等強國參與國際事務的路徑研究：以加拿大為例」『世界經濟與政治』第6期（2007年）、頁47～54。「中等強国」という言葉が最初に用いられている資料については、1986年にまで遡ることができる。G. 岡薩雷斯、湯小棣「何謂『中

ドとした研究に関しては、中国人の学生が執筆した 2006 年の修士論文が最初に出てくる¹³。つまるところ、2000 年代後半になってから、中国ではミドル・パワーに焦点を当てる研究が登場するようになったと言える。

中国でミドル・パワーへの関心が高まってきていることは確かだが、その概念の具体的な定義や、どの国家がミドル・パワーに該当するのかについては、統一された見解があるとは言い難い。例えば、どの国家がミドル・パワーに当てはまるのかについて、論者によってその見方は異なっている。ミドル・パワーについての研究者として知られている中国社会科学院の丁工は、2011 年に発表した論文の中で、ミドル・パワーに該当する国家としてスペイン、韓国、インドネシア、パキスタン、メキシコ、アルゼンチン、南アフリカ、ナイジェリア、エジプト、トルコ、イラン、サウジアラビア、そして豪州を挙げる一方、G7 の一員であるカナダをミドル・パワーではなく、大国として位置付けている¹⁴。他方で、カナダをミドル・パワーとして捉えた他の研究者による研究もある¹⁵。あるいは、トルコや南アフリカに加えて、インド、ブラジルをミドル・パワー

等強國?』『國外社會科學』第 6 期 (1986 年)、頁 43~44。この記事がきっかけとなって、中国の研究者がミドル・パワーの概念を知るようになったと論じられている。戴維來、前掲『中等強國崛起與國際關係的新變局』、頁 25。

¹³ 薛偉娟『試論後冷戰時代加拿大的人類安全理念及其結構主義外交實踐』天津師範大學碩士論文 (2006 年)。1987 年に「中等国家」に言及した雑誌記事があるが (章亦石「中等國傢探索和平和解的新途徑」『瞭望週刊』第 13 期 [1987 年]、頁 18)、それ以降、「中等国家」に言及した資料は 2007 年頃になるまで出てこない。

¹⁴ 丁工「中等強國崛起及其對中國外交布局的影響」『現代國際關係』第 10 期 (2011 年)、頁 49。

¹⁵ 張笑一『中等強國外交行為理論視野下的加拿大北極政策研究』(北京: 時事出版社、2017 年)。

とする見解もある¹⁶。以上のように、ミドル・パワーに纏わる議論は多様ではあるものの、中国の対外政策の中でミドル・パワーの存在が重要になってきているという考えについては、コンセンサスがあると言える。

なお、ミドル・パワーの国々との外交関係についての研究に関しては、中国の実際の対外政策決定過程にも影響を与えている可能性がある。上述の丁工によるレポートや論文は、中国共産党の上層部にまで上げられていると言われている¹⁷。

本稿で取り上げる豪州は、同国内外において、長年にわたって典型的なミドル・パワーとして見なされてきた歴史があり、実際の対外政策においても、ミドル・パワーとしての特徴が顕著な国家でもある¹⁸。

中国においても、豪州は典型的なミドル・パワーであるとの指摘がなされている¹⁹。また、中国外交部のホームページでは、豪州が「積極的で創造力のあるミドル・パワー外交（積極的有創造力の中等大国外交）」を推進していると紹介されており、一般的にミドル・パワーを指す「中等強国」や「中等国家」ではなく、「中等大国」という単語が用いられている²⁰。この「積極的で創造力のあ

¹⁶ 金燦榮、戴維來、金君達「中等強國崛起與中國外交的新著力點」『現代國際關係』第8期（2014年）、頁1～7及び26。

¹⁷ Bruce Gilley, “China’s Discovery of Middle Powers,” p. 47.

¹⁸ Carl Ungerer, “The ‘Middle Power’ Concept in Australian Foreign Policy,” *Australian Journal of Politics & History*, Vol. 53, No. 4 (December 2007), pp. 538-551.

¹⁹ 崔越、牛仲君「試論中國的對澳大利亞政策：基于『中等強國』行為邏輯的認知」『和平與發展』第2期（2017年）、頁74～83。

²⁰ 「澳大利亞國像概況」中華人民共和國外交部、2019年1月、https://www.fmprc.gov.cn/web/gjhdq_676201/gj_676203/dyz_681240/1206_681242/1206x0_681244/。

るミドル・パワー外交」は、2008年に当時の豪州のケヴィン・ラッド（Kevin Rudd）首相が演説の中で提起した「積極的で創造的な豪州のミドル・パワー外交（active, creative Australian middle-power diplomacy）」²¹に由来すると思われる。豪州は、中国においても代表的なミドル・パワーの国家として目されている。

近年では、習近平政権が推進する「一帯一路」構想に対する豪州の反応や²²、同国の対中ヘッジ戦略（対衝戦略）²³に関する分析もなされている。それに加え、豪州が日本や米国、インドと共にインド太平洋を重視するようになり、それら4カ国による協力の枠組みであるQUAD（Quadrilateral Security Dialogue）の一員でもあることから、その対外戦略にも注目が集まっている²⁴。

なお、周方銀は、豪州が米国の覇権を支える「戦略的な拠点国家（戦略支点国家）」であるとしている。周によれば、「戦略的な拠点国家」は、ある特定の大国のグローバル戦略や地域戦略を支え、その影響力を著しく増強させる役割を果たす機能を有しており、米国はそのような「戦略的な拠点国家」を複数擁している。欧州における英国、中東におけるイスラエルとサウジアラビア、アジア太平洋地域における日本及び豪州といった諸国が米国の「戦略的な拠点

²¹ “Address to the East Asia Forum in Conjunction with the Australian National University, Advancing Australia’s Global and Regional Economic Interests,” *Department of the Prime Minister and Cabinet*, March 26, 2008, <http://pmtranscripts.pmc.gov.au/release/transcript-15823>.

²² 陳陶然「澳大利亞對『一帯一路』倡議的認知與反應」権衡主編『「一帯一路」倡議與大國合作新發展』（上海：上海社會科學院出版社、2018年）、頁29～43。

²³ 韋宗友「澳大利亞的對華對衝戰略」『國際問題研究』第4期（2015年）、頁54～67。

²⁴ 宋偉「試論澳大利亞的印太體係概念與戰略路徑選取」『上海交通大學學報（哲學社會科學版）』第24卷第2号（2016年）、頁13～22。

国家」であり、これらの国々が米国の世界的に卓越した影響力を支えていると説いている²⁵。

本節で見たように、中国において、ミドル・パワーとしての豪州への関心が増しつつある。そして、次節で論じるように、ミドル・パワーとしての豪州は、周辺外交を推進する中国にとって重要な国家になっている。

三 中国が対豪関係を重視するようになった要因としての周辺外交と米豪同盟

1990年代以降の中国では、日米同盟や北大西洋条約機構(NATO)といった米国とその同盟国との関係を主題とする研究が多くなされてきた。その一方、2010年の時点でも、米豪同盟が東アジア地域全体や中国自身にとっても重要にかかわらず、米豪同盟に関する研究が不十分である現状が指摘されていた²⁶。

そもそも、以前の中国では、豪州自体に対する関心があまり高くはなかった。しかし、最近になり、豪州についての研究が中国において徐々に増えるようになってきている²⁷。豪州は大国ではないが、中国では、対豪関係が外交政策全体の中で重要であることが認知されるようになってきているという²⁸。また、依然として国際関

²⁵ 毛莉「戦略支點國像：研究未來十年中國外交和戰略體系構建的新視角：訪廣東外語外貿大學廣東國際戰略研究院教授周方銀」『中國社會科學網』2014年7月17日、http://news.cssn.cn/gd/gd_rwhn/gd_mzgz/201407/t20140717_1257830_2.shtml。

²⁶ 陶文釗「序言」李凡『冷戦後の美國和澳大利亞同盟關係』（北京：中國社會科學出版社、2010年）、頁1。

²⁷ Jingdong Yuan, *A Rising Power Looks Down Under*, p. 8.

²⁸ Weihua Liu and Yufan Hao, "Australia in China's Grand Strategy," *Asian Survey*, Vol. 54, No. 2 (March/April 2014), p. 367.

係を専門とする中国の研究者は豪州をあまり重視しない傾向にあるが、外交の実務に携わる外交部は対豪関係に細心の注意を払ってきたとの指摘もある²⁹。以上のように、中国において対豪関係が重視されるようになってきていることは確かである。

それでは、近年になって、なぜ中国では対豪関係の重要性が意識されるようになってきたのであろうか。ここでは、中国の外交・安全保障に直接的に関連する2つの要因を挙げたい。

1つ目は、中国の台頭に伴い、同国にとって周辺国との関係の重要性が高まってきたことである。とりわけ、冷戦後から周辺外交を進めてきた中国において、「小周辺」と「大周辺」の概念が出てきたことは、中豪関係の在り方とも深く関連している。

中国が台頭してその国力が上昇し、かつ海外における権益が増加するにつれて、「大周辺」外交が重要になってきた。中国では、同国を取り巻く「小周辺」と「大周辺」という2つ種類の「周辺」があると論じられている。まず、「小周辺」は、基本的に中国の領土や領海と隣接する国家あるいは地域であり、ロシア、モンゴル、東北アジア、東南アジア、南アジア、中央アジアがその範疇に含まれる。他方、「大周辺」は「小周辺」よりも広大で、その地理的な範囲は、「小周辺」にも含まれる北東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジアから、西アジアやオセアニアにまで至る³⁰。中国からすると、米中間での争いが最も激しい地理的空間は「周辺」地域であり、平和的な発展（和平発展）を遂げていく上で「大周辺」の

²⁹ Baogang He, "Collaborative and Conflictive Trilateralism Perspectives from Australia, China, and America" *Asian Survey*, Vol. 54, No. 2 (March/April 2014), p. 265.

³⁰ 祁懷高、石源華「中國周邊安全六大挑戰與大周邊外交戰略」張蘊嶺主編『新安全觀與新安全體系構建』（北京：社會科學文獻出版社、2015年）、頁287。

安定を確保する必要がある³¹。

そして、豪州は、その「大周辺」の中において存在感を増していると考えられてきた³²。「大周辺」の中に位置するオセアニア域内の豪州との友好関係は、中国の海洋安全保障にも直結すると指摘されている³³。また、冷戦後の中国は、経済分野での協力を推進することによって、近隣諸国が抱く台頭する中国に対する警戒心を和らげようと「大周辺」外交を進めてきた。豪州との関係も、「大周辺」外交の観点から重視されるようになってきたのである³⁴。そのみならず、「大周辺」に對外拡張を続け、米国による対中包圍網の形成阻止を狙う中国は、事実上の勢力圏の獲得を追求しており、その中に豪州を取り込もうとさえしている³⁵。

2点目は、豪州が米国の正式な同盟国であるという点である。中豪関係は、中国にとって最重要である米中関係と直接的に関わっており、米国要因が両国関係に非常に大きなインパクトを与えると目されている³⁶。中国のほとんどの専門家は、米豪同盟や日豪間での安全保障協力を米国による対中封じ込め戦略の一環として捉えてい

³¹ 高飛、李明江「前言」高飛、李明江主編『中國大周邊關係：和平發展 VS 戰略對衝』（新加坡：八方文化創作室、2017年）、頁 viii。

³² 張露、黃楫「大周邊戰略下的中澳關係發展」張蘊嶺主編『中國與周邊國傢：構建新型夥伴關係』（北京：社會科學文獻出版社、2008年）、頁 383~401。

³³ 同上、頁 387、祁懷高、石源華、前掲「中國周邊安全六大挑戰與大周邊外交戰略」、頁 287。

³⁴ 張海森『中國與澳大利亞建立自由貿易區研究』（北京：對外經濟貿易大學出版社、2007年）、頁 36~37。Baogang He, “Collaborative and Conflictive Trilateralism Perspectives from Australia, China, and America,” p. 266.

³⁵ Lei Yu, “China–Australia Strategic Partnership in the Context of China’s Grand Periphery Diplomacy,” *Cambridge Review of International Affairs*, Vol. 29, No. 2 (2016), pp. 740–760.

³⁶ 張露、黃楫、前掲「大周邊戰略下的中澳關係發展」、頁 393。

る。例えば、2011年に米豪間で決まった豪州のダーウィンへの米海兵隊のローテーション展開は、米国による豪州を利用した対中封じ込め戦略の顕著な例であると解釈されている³⁷。また、豪州自身が米国との同盟関係を強化することにより、中国が米国の覇権に挑むことを防いだり、米国優位の地域秩序を維持するために中国に対抗しようとしているとの見方もなされてきた³⁸。

元々、米豪同盟は中国では注目を集める分析対象ではなかったが、2010年代以降の米豪同盟の強化に加え、2000年代後半からの日豪関係の深化に伴って着目されるようになってきたのである³⁹。

なお、中国においては、冷戦期から豪州に対する相反する2つの見方が存在する。1つは、豪州がその同盟国である米国に追随する国家であるとの認識である。もう1つの見方は、豪州が常に米国と対中政策で歩調を揃えてきた訳ではなく、豪州が米国に対して外交的な独立性をある程度保ち、時には米豪間で食い違いが生じることもあるというものである⁴⁰。

例えば、台湾の統一を目標としてきた中国にとって、豪州は台湾海峡情勢とは切り離せない存在である。米国が台湾を政治的に支えている以上、中国にとって米国は台湾問題における最大の障害で

³⁷ Baogang He, “Collaborative and Conflictive Trilateralism Perspectives from Australia, China, and America,” p. 255.

³⁸ 喻常森、常晨光「中澳關係面面觀：寫在中澳建交40周年之際」常晨光、喻常森主編『中澳關係大趨勢：利益共同體的構建與展望』（広州：中山大學出版社、2012年）、頁48～49；嶽小穎『從「保障安全」到「提昇地位」：第二次世界大戰後澳大利亞對美國追隨政策之分析』（上海：上海社會科學院出版社、2013年）、頁199～200。

³⁹ Adam P. Liff, “China and the US Alliance System,” *The China Quarterly*, Vol. 233 (March 2018), pp. 149-150.

⁴⁰ 賈慶國、侯穎麗「走嚮平等互利：冷戰結束以來的中澳關係」『國際政治研究』第3期（1999年）、頁60。

あり、米国の同盟国もそれを阻む存在である。そこで中国は、アジアでの地域協力を通じて、米豪同盟の弱体化のみならず、その解消さえも狙って、台湾問題を巡る米豪のスタンスの乖離を図っている⁴¹。2005年に豪州に亡命した中国の元外交官である陳用林は、中国の対豪州政策には、短期と長期の狙いが込められているとする。それによれば、短期的には同盟関係にある米豪間に楔を打ち込み、仮に台湾海峡において米中間で戦争が起きたとしても、豪州が米国側に与しないようにすることである。また、長期的には、経済成長のために不可欠な純度の高い鉱物資源の輸入を確保することである⁴²。中国は、豪州を米国から政治的に引き離すことによって、豪州が米中の中で中立的な立場をとるように仕向けることを欲しているのである⁴³。

次節では、その時々の中豪関係とリンクさせながら、冷戦後の中豪関係を概観する。

四 冷戦後の中豪関係：米中関係とのリンクと近年の関係悪化

1989年6月の天安門事件によって、中国は西側諸国から経済制裁を受けることになった。その後、日本が他の西側諸国に先駆けて対中制裁を緩和したが、豪州も日本と同様に対中制裁をいち早く解除した。その一方で、台湾やチベット、人権問題、あるいは米国に

⁴¹ Baogang He, “Collaborative and Conflictive Trilateralism Perspectives from Australia, China, and America,” p. 254.

⁴² “The Strategist Six: Chen Yonglin,” *The Strategist*, June 5, 2017, <https://www.aspistrategist.org.au/strategist-six-chen-yonglin/>.

⁴³ Lei Yu, “China-Australia Strategic Partnership in the Context of China’s Grand Periphery Diplomacy,” p. 741.

よる対中経済制裁といった争点においては、豪州が米国の立場を支持していたこともあり、この時期の中豪関係は良好とは言えない状態にあった⁴⁴。それでも、中豪間では、天安門事件後、すぐに要人往来が行われるようになる⁴⁵。

しかし、1995年から起きた第3次台湾海峡危機に加えて、1996年3年に豪州でジョン・ハワード(John Howard)政権が発足すると、中豪関係は暗転の兆しを見せ始めるようになる。この台湾海峡危機の際、ハワード政権は米国側の姿勢を支持する姿勢を示し、中国を非難することも躊躇わず、更には台湾海峡に海軍の艦艇3隻を派遣したのであった。そのみならず、ハワード政権の親台湾的なスタンスやチベット問題を巡る摩擦もあって、この頃の中豪関係は明らかに悪化していた⁴⁶。また、1996年8月の『人民日報』は、米国が日米同盟を再定義したことに加え、米豪同盟を活性化させることにより、西太平洋での戦略的な立場を強化しているという警戒心を示している⁴⁷。後年にはなるが、中国外交部の外交官としてのキャリアがある李凡は、米豪同盟に関する自著の中で、1990年代半ば以降の両国間での同盟関係の強化は、明らかに中国に対して向けられたものであるとの評価を下している⁴⁸。

それでも、中豪両国は、1996年後半から関係修復に向かって

⁴⁴ Jingdong Yuan, *A Rising Power Looks Down Under*, p. 11.

⁴⁵ Weihua Liu and Yufan Hao, “Australia in China’s Grand Strategy,” pp. 376–377.

⁴⁶ Lei Yu, “China–Australia Strategic Partnership in the Context of China’s Grand Periphery Diplomacy,” pp. 746–747.

⁴⁷ 李學江「美國的『兩只錨』(國際論壇)」『人民日報』(北京)、1996年8月6日、頁6。

⁴⁸ 李凡『冷戦後の美國和澳大利亞同盟關係』(北京：中國社會科學出版社、2010年)、頁183。

徐々に歩み寄りを見せるようになっていく。1997年のハワードによる初の訪中や、1999年の中国の国家主席としては初めてとなる江沢民による訪豪が行われるなど、1990年代終盤の両国関係は修復に向かいつつあった⁴⁹。とは言え、1999年後半から2000年前半にかけて、台湾海峡情勢のみならず、ハワード政権による米国と連携を取りながら東アジアの地域秩序安定を図る方針の表明もあって、中豪関係には依然として課題が残っていることも浮き彫りとなった⁵⁰。

それでも、21世紀に入る前後から、ハワード政権の対中姿勢に変化が現れる。2003年には、中豪関係だけではなく、21世紀の国際関係における米中関係の最重要性を象徴するかのような出来事が豪州を舞台として繰り広げられた。同年10月、米国のジョージ・W・ブッシュ(George W. Bush)大統領が訪豪して同国の議会で演説した。その翌日には、ブッシュと同じく訪豪中であった中国の胡錦濤国家主席も豪州議会で演説を行ったのである。その後も、中豪関係は比較的安定した状態で推移を保っていく⁵¹。

だが、2006年3月に日米豪の間での初となる戦略対話が開催され、更に2007年9月のアジア太平洋経済協力会議(APEC)期間中にシドニーで日米豪首脳会談が初めて行われると、中国側で豪州に対する不信感が募り始める。とりわけ、日本と豪州との間での安

⁴⁹ Colin Mackerras, "Australia-China Relations at the End of the Twentieth Century," *Australian Journal of International Affairs*, Vol. 54, No. 2 (2000), pp. 187-191.

⁵⁰ William T. Tow and Leisa Hay, "Australia, the United States and a 'China Growing Strong': Managing Conflict Avoidance," *Australian Journal of International Affairs*, Vol. 55, No. 1 (2001), p. 41.

⁵¹ Lei Yu, "China-Australia Strategic Partnership in the Context of China's Grand Periphery Diplomacy," pp. 748-750.

全保障協力の進展は、中豪関係に負の影響をもたらすものであるとも論じられるようになり、中国は日米豪の3カ国協力を警戒するようになった⁵²。その上、この頃から、米国が豪州も含めた東アジアの国々と連携しながら自国を標的としたアジア版のNATOを結成しようとしているのではないかと、との疑念も中国国内では生じるようになる⁵³。

2007年12月、豪州でラッド政権が誕生すると、中国では中豪関係への期待感が高まった。なぜならば、ラッドは中国語に堪能な元外交官であり、知中派と目されていたからである。そして、2008年2月、豪州において、中豪間の戦略対話が初めて開かれた。その後の記者会見において、ステファン・スミス（Stephen Smith）外相が日米豪印から成るQUADへの不参加を発表したのである⁵⁴。この時のラッド政権によるQUADへの政策転換は、豪州の対米接近が止まっただけでなく、自国の豪州に対する影響力が高まったという印象を当時の中国側にもたらした⁵⁵。

だが、ラッド政権が2009年版の国防白書を刊行すると、中国側の姿勢が急変する。中国は何亜非外交副部長の訪豪をキャンセルし、また李克強副首相の訪豪も遅らせるなど、ラッド政権に対する不満を明確な形で示した⁵⁶。この2009年版の国防白書には、軍拡を

⁵² 周方銀「中国與澳大利亞關係的新發展」張蘊嶺、孫士海主編『亞太地區發展報告2008』（北京：社會科學文獻出版社、2008年）、頁307～309。

⁵³ 馬建英「『亞洲版北約』解析」『黨政幹部學刊』第11期（2007年）、頁49。

⁵⁴ “Joint Press Conference with Chinese Foreign Minister,” *The Hon Stephen Smith MP*, February 5, 2008, https://foreignminister.gov.au/transcripts/2008/080205_jpc.html.

⁵⁵ Weihua Liu and Yufan Hao, “Australia in China’s Grand Strategy,” p. 383.

⁵⁶ Lei Yu, “China–Australia Strategic Partnership in the Context of China’s Grand Periphery Diplomacy,” p. 751.

推し進める中国を名指しする記述などがあり、中国側は豪州に対して強く反発した。この他にも、英豪の資源大手リオ・ティント (Rio Tinto) 買収騒動やウイグル問題に関連する事件もあり、中豪関係はハワード政権初期のような最悪とも言える状態に陥った⁵⁷。

2011年11月、米国のバラク・オバマ (Barack Obama) 大統領が豪州を訪問し、米海兵隊を豪州のダーウィンにローテーション形式で駐留させることなどが合意され、米豪同盟に進展があった。中国外交部の報道官は、米豪間での合意について、国際経済が停滞し、国際社会の共通認識を育んでいくことが焦点になっている最中において、軍事同盟の強化や拡大は時代に即していないとする批判的なコメントを出したのであった⁵⁸。

その一方、中豪関係は、2010年代前半から半ばにかけて大きく発展を遂げることもなっていた。下記のように、2014年11月には、中豪間での自由貿易協定 (FTA) の合意に至り、2015年6月に豪州で調印された。2015年3月には、日米は不参加のアジア・インフラ・投資銀行 (AIIB) に豪州が加盟する等、中豪関係は特に経済分野で深化するようになった⁵⁹。

しかしながら、経済分野での関係進展とは対照的に、米中や日中間での角逐激化に伴い、中豪関係は外交面で複雑な様相を呈するようになる。とりわけ、南シナ海問題のような海洋を巡る領土問題

⁵⁷ 福嶋輝彦、前掲「同盟か、市場か?」、77～78 ページ。

⁵⁸ 「美國澳大利亞將宣布籤署永久駐軍協議中方迴應」『人民網』2011年11月16日、<http://world.people.com.cn/GB/8212/191617/9491/211918/16275824.html>。

⁵⁹ 近年の中豪間での経済分野を主とした関係深化については、次のレポートが詳しい。East Asian Bureau of Economic Research and China Center for International Economic Exchanges, *Partnership for Change: Australia-China Joint Economic Report* (Canberra: Australian National University Press, 2016)。

において、両国関係が錯綜する場面が度々見受けられるようになった。

2013年11月、中国が東シナ海に防空識別圏（ADIZ）を設定し、それに対して日本が抗議すると、豪州も日米と歩調を揃えて中国を非難した。一方の中国側は、外交部の報道官が豪州側に対して厳正な交渉の申し入れを行ったことと、強烈な不満を表明したことを明らかにして、中豪関係に悪影響を及ぼさないようにと強調した⁶⁰。

それでも、両国間での経済的な結びつきが深まる最中の2014年11月、豪州で開かれたG20に出席するために習近平国家主席が豪州を訪問した。この訪豪の際、中豪首脳間で両国関係を「全面的な戦略的パートナーシップ（全面戦略夥伴関係）」にまで引き上げることで合意がなされただけでなく、FTA交渉が実質的に終結したことも発表され⁶¹、中豪関係は新しい段階に入ったのであった。

2015年10月に米国海軍が初めて南シナ海で「航行の自由」作戦を実施した翌11月から12月までにかけて、豪州も同海域に哨戒機を派遣し、「航行の自由」作戦に加わったとの報道がなされた。この報道について、中国外交部の報道官は、豪州の名前に直接言及することは避けつつも、一部の域外国が南シナ海問題に関わることによって、事態を複雑化させないようにすることを希望するとのコメ

⁶⁰ 「外交部發言人秦剛就澳大利亞外長關於我國劃設東海防空識別區有關聲明事答記者問」中華人民共和國外交部、2013年11月27日、http://www.fmprc.gov.cn/web/gjhdq_676201/gj_676203/dyz_681240/1206_681242/fyrygth_681250/t1102982.shtml。

⁶¹ 「習近平同澳大利亞總理阿博特舉行會談一致決定建立中澳全面戰略夥伴關係宣布實質性結束中澳自由貿易協定談判」中華人民共和國外交部、2014年11月17日、https://www.fmprc.gov.cn/web/gjhdq_676201/gj_676203/dyz_681240/1206_681242/xgxw_681248/t1211809.shtml。

ントを出している⁶²。

2016年7月、仲裁裁判所が南シナ海の領有権をめぐる問題で中国側の主張を認めない判決を出すと、中国側はこれに断固として反対する姿勢を示した。豪州は、この判決に法的な拘束力があることを支持する声明を発表したが、中国側は豪州に嚴重に抗議し、その立場に反対するとしながら、豪州が南シナ海問題の当事国ではないとも非難したのであった⁶³。更に、同月25日のラオスでの東アジア首脳会議（EAS）の際に開かれた日米豪外相会談において、その3カ国が仲裁裁判所の判決への支持を改めて表明すると、中国側は再び反発した⁶⁴。それ以降も、中国側は、南シナ海問題に豪州側が干渉しないことを要求している。例えば、2016年10月に北京を訪れたマーク・ビンスキン（Mark Binskin）豪州空軍司令官に対して、範長龍中央軍事委員会副主席は、豪州が南シナ海に関する問題で慎重な対応を取ることや、同問題における言動を一致させるべきであると主張した⁶⁵。

2017年1月に米国でドナルド・トランプ（Donald Trump）政権が誕生すると、中国は豪州により接近する動きを見せるようにな

⁶² 「2015年12月15日外交部發言人洪磊主持例行記者會」中華人民共和國外交部、2015年12月15日、http://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/t1324481.shtml。

⁶³ 「2016年7月14日外交部發言人陸慷主持例行記者會」中華人民共和國外交部、2016年7月14日、http://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/jzhs1_673025/t1381550.shtml。

⁶⁴ 「外交部發言人陸慷就日本、美國、澳大利亞發表聯合聲明涉南海、東海問題事答記者問」中華人民共和國外交部、2016年7月27日、http://www.fmprc.gov.cn/web/gjhdq_676201/gj_676203/dyz_681240/1206_681242/fyrygth_681250/t1385098.shtml。

⁶⁵ 尹航「範長龍會見澳國防軍司令和國防部祕書長」『解放軍報』（北京）、2016年10月13日、頁1。

る。同年3月には、李克強首相が豪州を公式訪問し、自由貿易の重要性を説くなど、トランプ政権の保護主義を暗に批判するかのようなスピーチを行っている。それだけではなく、明らかに中豪関係に関する文脈の中で、李は、豪州が冷戦時代のようにいずれかの陣営に付くようなことは見たくないとして、豪州が米国の側に与することにクギを指すかのような発言をしている⁶⁶。

しかし、2017年になると、中豪間では新しい外交問題が生じることになる。それは、中国が豪州国内で政治的な工作活動を行っているという懸念が豪州で高まり、中豪関係を大きく揺るがすことになった一連の出来事であるが、この点に関しては次節で見ることにする。

2018年に入ってから、中豪間ではトラブルが続くことになる。1月に、豪州のコンセッタ・フィエラバンティ・ウェルズ (Concetta Fierravanti-Wells) 国際開発・太平洋担当相が中国の南太平洋諸国に対する開発支援を批判すると、中国側はそれを事実と反したものであると反発した⁶⁷。4月には、詳細は明らかにならなかったものの、南シナ海を航行していた豪州海軍の軍艦3隻が中国海軍側から挑発を受けたことが報道されたが⁶⁸、中国国防部は事実でないと主張した⁶⁹。更に、同時期に中国の成競業駐豪州大使が、

⁶⁶ 「李克強在澳大利亞總理特恩布爾舉行的歡迎宴會的致辭 (全文)」中華人民共和國外交部、2017年3月24日、<http://www.mfa.gov.cn/web/zyxw/t1448326.shtml>。

⁶⁷ 「2018年1月10日外交部發言人陸慷主持例行記者會」中華人民共和國外交部、2018年1月10日、https://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/jzhsL_673025/t1524690.shtml。

⁶⁸ Andrew Greene, “Australian Warships Challenged by Chinese Military in South China Sea,” *ABC*, April 20, 2018, <https://www.abc.net.au/news/2018-04-20/south-china-sea-australian-warships-challenged-by-chinese/9677908>.

⁶⁹ 「國防部新聞局就澳大利亞媒體炒作中澳軍艦南海相遇事答記者問」『中國軍網』

最近の中豪間では信頼が欠如しているとしながら、将来、中国側が豪州に対する貿易戦争を仕掛けるのではないかと解釈できるような発言をしている⁷⁰。

8月、豪州でスコット・モリソン (Scott Morrison) 政権が発足すると、中国側は豪州の新政権と共に両国関係を発展させたいとの意思を表明している⁷¹。しかし、そのおよそ10日後には、『環球時報』紙が「中豪関係が改善するのは良いが、改善しなくても構わない」と題する社説を出した。中国側では豪州の新政権誕生によって中豪関係が変化するとの見方は主流ではない上に、豪州側にとって、中国は尊重及び真剣に対応しなければならない大国であると主張する等⁷²、中国側は豪州に対する手厳しい姿勢を崩さないという一種のメッセージを送った。それでも、11月にEAS関連の一連の会議が行われていたシンガポールにおいて、初めて李克強とモリソンが会談を行い、中国側は関係改善に前向きな姿勢を示したのであった⁷³。

ここ数年の米中関係や日中関係の不安定化、南シナ海情勢の緊迫化等を受けて、中豪関係は混迷を深めるようになってきており、両国関係は転換期を迎えつつある。

2018年4月20日、https://www.81.cn/jwgz/2018-04/20/content_8010174.htm。

⁷⁰ “China Warns Australia over Hostile Sentiment,” *People’s Daily Online*, April 20, 2018, <http://en.people.cn/n3/2018/0420/c90000-9451678.html>.

⁷¹ 「2018年8月24日外交部發言人陸慷主持例行記者會」中華人民共和國外交部、2018年8月24日、https://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/jzhsL_673025/t1587984.shtml。

⁷² 「社評：中澳關係改善則好、不改善也無所謂」『環球時報』（電子版）2018年9月4日、<http://opinion.huanqiu.com/editorial/2018-09/12925657.html>。

⁷³ 張慧中、趙益普「李克強同澳大利亞總理莫里森舉行第六輪中澳總理年度會晤」『人民日報』（北京）、2018年11月15日、頁3。

五 中国による米豪同盟への対応：豪州国内での中国による政治工作に関する動向

近年、中国が他国で政治工作を実施することにより、その国の世論を自国にとって好ましい方向に仕向けようとしている動きが取りざたされるようになってきている。中国による他国での政治工作の目的は、米国とアジア太平洋域内のその同盟国との間に楔を打ち込んで、米国の同盟ネットワークを弱体化させることにある。そして、豪州もそのターゲットになっている⁷⁴。

中国が米豪間に楔を打ち込もうとしても、その成功の見込みは少ないという指摘もなされてきた⁷⁵。しかし、豪州メディアとのインタビューにおいて、米国のヒラリー・クリントン（Hillary Clinton）元国務長官が中国による国内政治への干渉に注意するべきであると警鐘を鳴らしているように、豪州国内における中国の工作活動が国際的な注目を集めており、米豪同盟への余波も憂慮されている⁷⁶。また、近年のシャープ・パワー（sharp power）と称される概念の提起もあり、中豪間での問題は、特に西側諸国で人目を引くようになった。シャープ・パワーとは、中国やロシアのような権威主義体制国家が民主主義国の政治制度やその開放的な社会といった特徴につけ込むことによって、自国にとって都合の良い情報操作や世論工作を行い、民主主義国内部での影響力拡大を狙う動向であ

⁷⁴ Bates Gill and Benjamin Schreer, “Countering China’s ‘United Front’,” *The Washington Quarterly*, Vol. 41, No. 2 (Summer 2018), p. 161.

⁷⁵ Mohan Malik, “Australia, America and Asia,” *Pacific Affairs*, Vol. 79, No. 4 (Winter 2006–2007), pp. 587–595.

⁷⁶ Leigh Sales, “Hillary Clinton Warns of Chinese Influence on Australian Politics,” *ABC*, May 14, 2018, <http://www.abc.net.au/news/2018-05-14/hillary-clinton-warns-of-chinese-influence-in-australia-politics/9754928>.

る。豪州においては、中国による豪州国内での政治工作活動が大きく報道されるようになると、中国のシャープ・パワーが脚光を浴びるようになった⁷⁷。

豪州国内における中国のシャープ・パワーが取りざたされるようになった発端は、2016年からその翌年にかけて、野党の労働党に所属するサム・ダスティアーリ (Sam Dastyari) 上院議員が、中国政府とつながる組織や人物から便宜を受けていただけではなく、中国の南シナ海問題に関する主張に同調するような発言をしたこと等から、中国が豪州国内において政治的な影響力を高めようと様々な活動を行っているのではないか、との疑惑が強まったことである。ダスティアーリに関しては、中国政府と深い関係にあると目される華人の富豪である黄向墨や、その関連団体から金銭的な供与があったというメディア報道がなされるようになり、その責任を取るといふ意向から、同議員は2018年1月に議員辞職した⁷⁸。

中国による豪州国内での政治的な活動の背景には、中国共産党の組織である中共中央統一戦線工作部が暗躍しているとの見方が根強く、その実態が注目されている。また、米国やニュージーランド、台湾でも同様の政治工作が行われていることが指摘されている⁷⁹。

豪州国内において、中国の见えない圧力がかかったとも言える象徴的な事件は、クライヴ・ハミルトン (Clive Hamilton) による著

⁷⁷ 石原雄介「中豪関係と『シャープパワー』概念」『NIDS コメンタリー』第82号、2018年8月1日。

⁷⁸ 同上。

⁷⁹ Alexander Bowe, "China's Overseas United Front Work: Background and Implications for the United States," *U. S.-China Economic and Security Review Commission Staff Research Report* (Washington D. C.: U. S.-China Economic and Security Review Commission, 2018).

書『静かなる侵略 (Silent Invasion)⁸⁰』を巡る一連の騒動である。中国が豪州国内でどのような政治的な工作活動をしているのかについて記したこの書籍を刊行しようとしたところ、中国政府から訴訟を受けるリスクがあるということで、出版社が同書の出版を延期する決定を下した。結局、同書は別の出版社から後日に出版されたが、この騒動は豪州国内で高まる中国の影響力を象徴する出来事として広く知られるようになった⁸¹。

これらの事態を受けて、豪州政府は外国人や外国政府のロビー活動を制限する法案を成立させる等の対策案を打ち出したが、中国側は豪州の反応に対して極めて批判的である。例えば、2018年5月に豪州のジュリー・ビショップ (Julie Bishop) 外相と会見した中国の王毅外交部長は、中豪関係は豪州側の原因によって悪化していると述べ、また中国が他国の内政に干渉するようなことはないと言明しながら、両国関係の発展のために豪州は色眼鏡を外して中国を見るべきであると発言した⁸²。また、中国共産党の機関紙『人民日報』も、2017年以降は豪州を手厳しく非難する論評を掲載するようになる等⁸³、豪州に対する厳しい批判が繰り返し行われた。2019年2月には、豪州国内での政治工作に関わっていたと見られた上述

⁸⁰ Clive Hamilton, *Silent Invasion: China's Influence in Australia* (Melbourne: Hardie Grant Books, 2018).

⁸¹ 高橋香織「豪、多文化主義の危機 (中国化進む世界)」『日本経済新聞』(電子版)、2018年3月29日、<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO28500370T20C18A3000000/>。

⁸² 「王毅會見澳大外長畢曉普」中華人民共和國外交部、2018年5月22日、<http://aalco-beijing.mfa.gov.cn/web/wjbzhd/t1561277.shtml>。

⁸³ 鍾聲「澳方對華認知須從事實出發」『人民日報』(北京)、2017年12月11日、頁3; 曾繁強「『小人之心』是澳『恐華』癥結」『人民日報 (海外版)』(北京)、2018年4月3日、頁10。

の黄向墨に対し、豪州政府が事実上の国外退去処分を下した。それを受け、中国政府側は、改めて自国が他国の内政に干渉するようなことはないと主張している⁸⁴。

このようにして、2017年以降の中豪関係は短期間で大きく悪化することになった。中国は、米豪同盟を含めた米国の同盟ネットワークを以前よりも安全保障上の脅威として捉えるようになってきている。それに加え、「大周辺」の現出やミドル・パワーの豪州が持つ地政学的な価値が上がるにつれて、中国にとって対豪関係が持つ意味合いがより重要性を帯びるようになってきた。その結果、米豪同盟に楔を打ち込む目的から、シャープ・パワーを駆使しようとする中国が豪州国内での政治工作を強化するようになったと見られる。

六 おわりに

ここまで、ミドル・パワーの国々との関係強化や周辺外交に本格的に着手するようになった中国にとって、「大周辺」に所在する豪州の戦略的な価値が高まってきたことを論じてきた。それに加えて、米国の同盟ネットワークを脅威として認識している中国が、米豪同盟に楔を入れようとしてきたことについても説明した。中国は、自国に向けられた包囲網形成を防止するため、自らの勢力圏に豪州を取り込み、米国に対抗しようとしていると結論付けることができる。

このような中国による米豪同盟へのアプローチが功を奏してい

⁸⁴ 「2019年2月11日外交部發言人華春瑩主持例行記者會」中華人民共和國外交部、2019年2月11日、https://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/jzhs1_673025/t1636893.shtml。

るのか否かを断言することは容易ではないが、今後のインド太平洋地域の情勢を占う上で、これからも中豪関係を注視していく必要がある。また、米中間での戦略的な競争が今後も続いていくと予想されることから、引き続き中豪間では様々な摩擦が起きていくであろう。

本稿では、主に米国の存在が中豪関係に与える影響に焦点を当ててきた。この結論部では、日本の存在が中豪関係にどのような影響を及ぼすかについて、簡潔に考察してみることにしたい。

前述のように、中国においては、米国の同盟国である日本が豪州との関係を深めていることが警戒視されており、それ故に豪州に関する分析も増えるようになった⁸⁵。米国の対外政策や豪州の国内政治といった要素だけではなく、日本が中豪関係に及ぼす影響も決して小さくはなく、また、日本が豪州を対中牽制のために利用していると中国では見られてきたのである⁸⁶。そして、ニック・ビズリー (Nick Bisley) が指摘するように、日中間での競争が豪州の対外政策に影響を及ぼす度合いは、これまで過小評価されてきたと言える⁸⁷。したがって、中豪関係や豪州を巡る国際関係を分析するには、米国だけではなく、日本も肝要なアクターとして念頭に置く必要がある。

近年、日本政府高官からは、日豪関係が準同盟 (quasi-alliance)

⁸⁵ Adam P. Liff, “China and the US Alliance System,” pp. 149–150.

⁸⁶ 張露、黄楫「大周邊戰略下的中澳關係發展」、頁393～397；周方銀「中國與澳大利亞關係的新發展」張蘊嶺、孫士海主編『亞太地區發展報告 2008』（北京：社會科學文獻出版社、2008年）、頁307～309。

⁸⁷ Nick Bisley, “Australia Navigates Sino-Japanese Competition: Engaging, Binding and Hedging,” in Jeffrey Reeves, Jeffrey Hornung and Kerry Lynn Nankivell (eds.), *Chinese-Japanese Competition and the East Asian Security Complex: Vying for Influence* (New York: Routledge, 2017), pp. 143–158.

の域に達したとの声も聞かれるようになった通り⁸⁸、近年の両国は安全保障分野で緊密な協力を行うようになってきている。ただし、日豪間に問題がないわけではない。例えば、日本の潜水艦「そうりゅう」の豪州への輸出を巡る案件では、日豪間での対中及び対米認識の間に温度差があることが露呈しただけではなく、日本側で自国の防衛産業を巡る事情が優先にされたことから、結局その取引は不成立となった⁸⁹。今後、日本が豪州との関係や安全保障協力を強化していくのであれば、中豪関係や豪州についての理解をより深めることが求められる。だが、日本の政策が中豪関係や豪州に及ぼす影響に関しては、どの程度日本で理解されているのかが不透明な部分もある。よって、日本要因が中豪関係に影響を与えてきメカニズムについての分析は、今後の研究課題として残されていると言える。

最後に、上述の『静かなる侵略』の著者であるハミルトンは、日本のメディアとのインタビューにおいて、自身も巻き込まれた中国政府による言論の自由を弾圧するかのような出来事は日本でも起こりえると警告している⁹⁰。中国が他国の言論の自由を制約するようなケースは、今後も実際に起きていく可能性がある⁹¹。日本として

⁸⁸ John Garnaut, “Australia-Japan Military Ties Are a ‘Quasi-Alliance’, Say Officials,” *The Sydney Morning Herald*, October 26, 2014, <http://www.smh.com.au/national/australiajapan-military-ties-are-a-quasi-alliance-say-officials-20141026-11c4bi.html>.

⁸⁹ 松村昌廣「日豪同盟の幻影：豪州における『そうりゅう』型潜水艦輸入論争」『問題と研究』第46巻第3号（2017年）、65～92ページ。

⁹⁰ 「中国の介入『日本も脅威認識を』豪チャールズ・スタート大 クライブ・ハミルトン教授」『産経ニュース』2018年3月20日、<http://www.sankei.com/world/news/180320/wor1803200054-n1.html>。

⁹¹ ニュージーランドの中国専門家であるアンマリー・ブレディ (Anne-Marie Brady) の自宅及び大学のオフィスにあったパソコンや研究資料等が、何者かによって盗まれる事件があった。ブレディがニュージーランド国内における中国の政治工作

は、中国との関係を改善していく必要はある。しかし、もしも中国が日本国内で世論工作のような政治的な活動を行うようであれば、日本としては、これに対抗するための措置を徹底的に実施すべきである。

(寄稿：2019年3月11日、採用：2019年6月5日)

等に関する研究をしていたことから、この事件には中国当局の関与があったとの見方が浮上した。しかし、ニュージーランド当局が捜査に積極的でないことから、303人にのぼる世界各国の研究者やジャーナリスト達がブレディの研究をサポートする署名を公表したのであった。“Open Letter on Harassment Campaign against Anne-Marie Brady,” *Sinopsis*, December 5, 2018, <https://sinopsis.cz/en/open-letter-on-harassment-campaign-against-anne-marie-brady-2/>.

中國周邊外交下作為中等強國的澳洲： 中澳關係的展開及其對美澳同盟的影響

山崎周

(青山學院大學總合研究所助理研究員)

【摘要】

對於崛起的中國而言，加強和深化與「中等強國」之間的關係，逐漸成為外交的主要目標之一。在中美兩國而言，在兩強戰略競逐之下，「中等強國」的重要性提升。其中，澳洲作為印度太平洋地區的「中等強國」，近年來在中國受到關注。

本文旨在探討中國在後冷戰時期如何對澳洲展開外交策略。對於新興崛起的中國來說，印度太平洋地區「中等強國」的重要性逐漸提高。其中，特別是作為「中等強國」代表的澳洲，近年來突顯出了存在感。甚至可以說，中國欲分化美澳同盟關係，而將澳洲納入自身的勢力範圍。然而，日本也是在中澳關係型塑下的關鍵角色。因此，在分析雙邊關係時，不應低估日本對中澳關係的影響因素。

關鍵字：中澳關係、美澳同盟、中等強國、周邊外交、銳實力

Australia as Middle Power in China's Periphery Diplomacy: How the Evolving China-Australia Relations Affect the U.S.- Australia Alliance

Amane Yamazaki

Research Fellow, Research Institute, Aoyama Gakuin University

【Abstract】

Strengthening and keeping diplomatic relations with middle powers are becoming one of the main focus for rising China. The intensifying U.S.-China rivalry makes middle powers' strategic values much higher for the two great powers. Of these, a middle power in the Indo-Pacific region, Australia, attracts careful attention from some scholars and policy-makers in contemporary China.

In this article, I examine China's strategy towards Australia in the post-Cold War era. Today, Australia is a significant country for China due to two factors: Beijing's periphery diplomacy and Canberra's alliance relationships with Washington. China is not only trying to drive a wedge between the U. S. and Australia, but also, it aims to incorporate Australia into its sphere of influence in order to prevent the emergence of an anti-China coalition, which could be led by Washington. It can be seen that China is taking proactive actions to split the U.S.-Australia alliance. In addition, Japan is also a key player that can shape the trajectory of China-Australia relations. Thus, Tokyo's impact on China-Australia relations should not be underrated

when we analyze the bilateral ties. This point will be a future subject for investigation.

Keywords: China-Australia relations, the U.S.-Australia alliance, middle power, periphery diplomacy, sharp power

〈参考文献〉

- 「中国の介入『日本も脅威認識を』豪チャールズ・スタート大 クライブ・ハミルトン教授」『産経ニュース』2018年3月20日、<http://www.sankei.com/world/news/180320/wor1803200054-n1.html>。
- “Chugoku no kainyu ‘nihon mo kyōi ninshiki wo’ go charuzu sutato dai kuraibu hamiruton kyōju” [‘Japan Should Have Threat Perception’ towards China’s Interference], *Sankei nyusu* [*SankeiNews*], March 20, 2018.
- 石原雄介「中豪関係と『シャープパワー』概念」『NIDS コメンタリー』第82号、2018年8月1日。
- Ishihara, Yusuke, “Chu gou kankei to ‘shapu pawa’ gainen” [China-Australia Relations and the Concept of ‘Sharp Power’], *NIDS comentari* [*NIDS Commentary*], No. 82, August 1, 2018.
- 石原雄介「米豪同盟と中国：『二重のトレンド』の顕在化」『国際安全保障』第44巻第1号（2016年6月）、30～48ページ。
- Ishihara, Yusuke, “Bei gou doumei to chugoku: ‘niju no torendo’ no kenzaika” [Australia-US Alliance and the Rise of China: Emergence of the ‘Dual Trends’], *Kokusai anzen hoshō* [*The Journal of International Security*], Vol. 44, No. 1, June 2016, pp. 30-48.
- 国際安全保障学会編「特集：中国台頭への対応 地域ミドルパワーの視点」『国際安全保障』第39巻第2号（2011年9月）。
- Kokusai anzen hoshō gakkai [Japan Association for International Security] ed., “Tokushu: chugoku taito he no taiou chiiki midoru pawa no shiten,” [Responses to the Rise of China: Perspectives of Regional Middle Power], *Kokusai anzen hoshō* [*The Journal of International Security*], Vol. 39, No. 2, September 2011.
- 佐竹知彦「豪州とインド太平洋：多極化時代における新たな秩序を求めて」『国際安全保障』第46巻第3号（2018年12月）、51～70ページ。
- Satake, Tomohiko, “Goshu to indotaiheiyou: takyokuka jidai ni okeru aratana chitsujo wo motomete” [Australia and the Indo-Pacific; Searching for a new Order in a Multipolar Era], *Kokusai anzen hoshō* [*The Journal of International Security*], Vol. 46, No. 3, December 12, pp. 51-70.
- 習近平『習近平国政運営を語る』（北京：外文出版社、2014年）。
- Shu, Kinpei, *Shu kinpei kokusei unei wo kataru* [*Xi Jinping: The Governance of China*] Beijing: Gaibun shuppansha [Foreign Languages Press], 2014.
- 添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交：戦後日本の選択と構想』（筑摩書房、2005年）。
- Soeya, Yoshihide, *Nihon no ‘midorupawa’ gaikou* [Japan’s ‘Middle Power’ Diplomacy], Chikuma shobō, 2005.
- 高橋香織「豪、多文化主義の危機（中国化進む世界）」『日本経済新聞』（電子版）、2018年3月29日、<https://www.nikkei.com/article/>

DGXMZO28500370T20C18A3000000/。

Takahasi, Kaori, “Go, tabunka shugi no kiki (chugoku ka susumu sekai)” [The Crisis of Multiculturalism in Australia], *Nihon keizai shinbun [The Nikkei Web]*, March 29, 2018.

福嶋輝彦「同盟か、市場か? : オーストラリアの対中アプローチ」『主要国の対中認識・政策の分析』（日本国際問題研究所、2015年）、73～98ページ。

Fukushima, Teruhiko, “Doumei ka shijo ka? Osutoraria no tai chu apurochi” [Alliance or market? Australia’s Approach to China], *Shuyou koku no tai chu ninshiki, seisaku no bunseki [Analysis of Perceptions and Policies of Principal Countries towards China]*, Japan Institute of International Affairs, 2015, pp. 73-98.

福嶋輝彦「米中に揺れるオーストラリア：ギラード労働党政権の外交・安全保障政策を中心に」『国際問題』第628号（2014年1月）、38～46ページ。

Fukushima, Teruhiko, “Beichu ni yureru osutoraria: Gillard roudou tou seiken no gaikou anzenhosho seisaku wo chuusin ni” [Australia Sways between the U. S. and China: Labor’s Gillard Government’s Foreign and Security Policies], *Kokusai mondai [International Affairs]*, Vol. 628, January 2014, pp. 38-46.

福嶋輝彦「対米同盟と中国市場の狭間で：中国の台頭に対応するオーストラリア」『国際安全保障』第39号2巻（2011年9月）、6～27ページ。

Fukushima, Teruhiko, “Tai bei doumei to chugoku shijo no hazama de: chugoku no taito ni taiou suru ousutoraria” [US Alliance or Chinese Markets?: Australia in Response to the Recent Rise of China], *Kokusai anzen hosho [The Journal of International Security]*, Vol. 39, No. 2, September 2011, pp. 6-27.

松村昌廣「日豪同盟の幻影：豪州における『そうりゅう』型潜水艦輸入論争」『問題と研究』第46巻第3号（2017年）、65～92ページ。

Matsumura, Masahiro, “Nichi gou doumei no genei: goushyu ni okeru ‘souryu’ gata sensuikan yunyu ronsou” [Aborting the Sub-Deal: The Illusion of a Japan-Australia Alliance], *Mondai to kenkyu [Issues and Studies]*, 2017, pp. 65-92.

「2019年2月11日外交部發言人華春瑩主持例行記者會」中華人民共和國外交部、2019年2月11日、https://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/jzhsl_673025/t1636893.shtml。

“2019 nian 2 yue 11 ri waijiaobu fayanren hua chunying zhuchi lixing jizhe hui” [Foreign Ministry Spokesperson Hua Chunying’s Regular Press Conference on February 11, 2019], *Zhonghua renmin gonghe guo waijiaobu [The Chinese Ministry of Foreign Affairs]*, February 11, 2019.

「2018年8月24日外交部發言人陸慷主持例行記者會」中華人民共和國外交部、2018年8月24日、https://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/jzhsl_673025/t1587984.shtml。

“2018 nian 8 yue 24 ri waijiaobu fayanren lu kang zhuchi lixing jizhe hui” [Foreign Ministry Spokesperson Lu Kang’s Regular Press Conference on August 24, 2018], *Zhonghua renmin gonghe guo waijiaobu [The Chinese Ministry of Foreign Affairs]*, August

24, 2018.

「2018年1月10日外交部發言人陸慷主持例行記者會」中華人民共和國外交部、2018年1月10日、https://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/jzhs1_673025/t1524690.shtml。

“2018 nian 1 yue 10 ri waijiaobu fayanren lu kang zhuchi lixing jizhe hui” [Foreign Ministry Spokesperson Lu Kang’s Regular Press Conference on January 10, 2018], Zhonghua renmin gonghe guo waijiaobu [The Chinese Ministry of Foreign Affairs], January 10, 2018.

「2016年7月14日外交部發言人陸慷主持例行記者會」中華人民共和國外交部、2016年7月14日、http://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/jzhs1_673025/t1381550.shtml。

“2016 nian 7 yue 14 ri waijiaobu fayanren lu kang zhuchi lixing jizhe hui” [Foreign Ministry Spokesperson Lu kang’s Regular Press Conference on July 14, 2016], Zhonghua renmin gonghe guo waijiaobu [The Chinese Ministry of Foreign Affairs], July 14, 2016.

「2015年12月15日外交部發言人洪磊主持例行記者會」中華人民共和國外交部、2015年12月15日、http://www.fmprc.gov.cn/web/fyrbt_673021/t1324481.shtml。

“2015 nian 12 yue 15 ri waijiaobu fayanren hong lei zhuchi lixing jizhe hui” [Foreign Ministry Spokesperson Hong Lei’s Regular Press Conference on December 15, 2015], Zhonghua renmin gonghe guo waijiaobu [The Chinese Ministry of Foreign Affairs], December 15, 2015.

「王毅會見澳大利亞外長畢曉普」中華人民共和國外交部、2018年5月22日、<http://aalco-beijing.mfa.gov.cn/web/wjzbhd/t1561277.shtml>。

“Wang yi huijian aodalिया waizhang bixiaopu” [Wang Yi Meets with Foreign Minister Julie Bishop of Australia], Zhonghua renmin gonghe guo waijiaobu [The Chinese Ministry of Foreign Affairs], May 22, 2018.

「外交部發言人陸慷就日本、美國、澳大利亞發表聯合聲明涉南海、東海問題事答記者問」中華人民共和國外交部、2016年7月27日、http://www.fmprc.gov.cn/web/gjhdq_676201/gj_676203/dyz_681240/1206_681242/fyrygth_681250/t1385098.shtml。

“Waijiaobu fayanren lu kang jiu riben,meiguoa,aodalिया fabiao lianhe shengming she nanhai, donghai wenti shi da jizhe wen” [Foreign Ministry Spokesperson Lu Kang’s Remarks on the Joint Statement on South China Sea and East China Sea Issued by Japan, US and Australia], Zhonghua renmin gonghe guo waijiaobu [The Chinese Ministry of Foreign Affairs], July 27, 2016.

「外交部發言人秦剛就澳大利亞外長關於我國劃設東海防空識別區有關聲明事答記者問」中華人民共和國外交部、2013年11月27日、http://www.fmprc.gov.cn/web/gjhdq_676201/gj_676203/dyz_681240/1206_681242/fyrygth_681250/t1102982.shtml。

“Waijiaobu fayanren qingang jiu aodalिया waizhang guanyu wo guo huashe donghai

- fangkong shibie qu youguan shengming shi da jizhe wen” [Foreign Ministry Spokesperson Qin Gang’s Remarks on Australian Foreign Minister’s Statement Concerning China’s Establishment of the Air Defense Identification Zone (ADIZ) in the East China Sea], *Zhonghua renmin gonghe guo waijiaobu* [The Chinese Ministry of Foreign Affairs], November 27, 2013.
- 「李克強在澳大利亞總理特恩布爾舉行的歡迎宴會的致辭（全文）」中華人民共和國外交部、2017年3月24日、<http://www.mfa.gov.cn/web/zyxw/t1448326.shtml>。
- “Li Keqiang zai aodaliya zongli teenbuer juxing de huanying yanhui de zhici (quanwen)” [Li Keqiang Attends and Addresses Welcoming Banquet Held by Prime Minister Malcolm Turnbull of Australia], *Zhonghua renmin gonghe guo waijiaobu* [The Chinese Ministry of Foreign Affairs], March 24, 2017.
- 「社評：中澳關係改善則好、不改善也無所謂」『環球時報』（電子版）2018年9月4日、<http://opinion.huanqiu.com/editorial/2018-09/12925657.html>。
- “Sheping; zhongao guanxi gaishan ze hao, bu gaishan ye wusuowei” [Editorial: Improving China-Australia Relations is good, though It Doesn’t Matter], *Huanqiu Wang*, [Global Times Online], September 4, 2018.
- 「國防部新聞局就澳大利亞媒體炒作中澳軍艦南海相遇事答記者問」『中國軍網』2018年4月20日、https://www.81.cn/jwgz/2018-04/20/content_8010174.htm。
- “Guofang bu xinwenju jiu aodaliya meiti chaozuo Zhong ao junjian nanhai xiangyu shida jizhe wen” [Defense Ministry: China Has Professional Encounter with Australian Warships in S. China Sea], *Zhongguo jun wang* [China Military Online], April 20, 2018.
- 「美國澳大利亞將宣布籤署永久駐軍協議中方迴應」『人民網』2011年11月16日、<http://world.people.com.cn/GB/8212/191617/9491/211918/16275824.html>。
- “Meiguo aodaliya jiang xuanbu qianshu yongjiu zhujun xieyi zhongfang huiying” [The U. S. and Australia Will Sign an Agreement on the Stationing of the U. S. Forces: China Reacts], *Renmin wang* [People’s Daily Online], November 16, 2011.
- 「習近平同澳大利亞總理阿博特舉行會談 一致決定建立中澳全面戰略夥伴關係 宣布實質性結束中澳自由貿易協定談判」中華人民共和國外交部、2014年11月17日、https://www.fmprc.gov.cn/web/gjhdq_676201/gj_676203/dyz_681240/1206_681242/xgxw_681248/t1211809.shtml。
- “Xi Jinping tong aodaliya zongli abote juxing huitan yizhi jue ding jianli Zhong ao quanmian zhanlue huoban guanxi xuanbu shizhixing jieshu zhong ao ziyou maoyi xieding tanpan” [Xi Jinping Holds Talks with Prime Minister Tony Abbott of Australia Deciding Unanimously to Establish China-Australia Comprehensive Strategic Partnership and Announcing the Substantive Completion of the China-Australia FTA Negotiation], *Zhonghua renmin gonghe guo waijiaobu* [The Chinese Ministry of Foreign Affairs], November 17, 2014.
- 「澳大利亞國傢概況」中華人民共和國外交部、2019年1月、https://www.fmprc.gov.cn/web/gjhdq_676201/gj_676203/dyz_681240/1206_681242/1206x0_681244/。
- “Aodaliya guojia gaikuang” [The Overview of Australia], *Zhongguo renmin gonghe guo*

- waijiao bu [The Chinese Ministry of Foreign Affairs], January 2019.
- G. 岡薩雷斯、湯小棣「何謂『中等強國』?」『國外社會科學』第6期(1986年)、頁43~44。
- G. Gangsaleisi, Tang Xiaodi, "Hewei 'zhongdeng qianguo'?" [What is a 'Middle Power'?], *Guowai shehui kexue [Social Sciences Abroad]*, Vol. 6, 1986, pp. 43-44.
- 丁工「中等強國與中國周邊外交」『世界經濟與政治』第7期(2014年)、頁24~41。
- Ding, Gong, "Zhongdeng qianguo yu zhongguo zhoubian waijiao" [The Role of Middle Powers in China's Peripheral Diplomacy], *Shijie jingji yu zhengzhi [World Economics and Politics]*, Vol. 7, 2014, pp. 24-41.
- 丁工「中等強國崛起及其對中國外交布局的影響」『現代國際關係』第10期(2011年)、頁47~53。
- Ding, Gong, "Zhongdeng qianguo jueqi ji qi dui zhongguo waijiao buju de yingxiang [The Rise of Middle Powers and its Effect on China's Foreign Policy Framework], *Xiandai guoji guanxi [Contemporary International Relations]*, Vol. 10, 2011, pp. 47-53.
- 毛莉「戰略支點國傢：研究未來十年中國外交和戰略體系構建的新視角：訪廣東外語外貿大學廣東國際戰略研究院教授周方銀」『中國社會科學網』2014年7月17日、http://news.ccn.cn/gd/gd_rwhn/gd_mzgz/201407/t20140717_1257830_2.shtml。
- Mao, Li, "Zhanlue zhidian guojia: yanjiu weilai shinian zhongguo waijiao he zhanlue tixi goujian de xin shijiao: fang Guangdong waiyu waimao daxue Guangdong guoji zhanlue yanjiuyuan jiaoshou zhou fangying" [Strategic pivot state: Studying new perspectives on building Chinese diplomatic and strategic structure for ten years: Interviewing Professor Zhou Fangying at the Guangdong Institute for International Strategic Studies of the Guangdong University of Foreign Studies], *Zhongguo shehui kexue wang [Chinese Social Sciences Net]*, July 17, 2014.
- 尹航「範長龍會見澳國防軍司令和國防部祕書長」『解放軍報』(北京)、2016年10月13日、頁1。
- Yin, Hang, "Fan changlong huijian ao guofang jun siling he guofang bu mishu zhang" [Fang Changlong Meets Chief of the Australian Defense Force and Secretary of Department of Defense], *Jiefang junbao [PLA Daily]*, October 13, 2016, p. 1.
- 李凡『冷戰後的美國和澳大利亞同盟關係』(北京：中國社會科學出版社、2010年)。
- Li, Fan, *Lengzhan hou de meiguo he aodaliya tongmeng guanxi [U. S.-Australia Alliance Relations after the Cold War]*, Beijing: Zhongguo shehui kexue chubanshe [China Social Sciences Press], 2010.
- 李學江「美國的『兩只錨』(國際論壇)」『人民日報』(北京)、1996年8月6日、頁6。
- Li, xuejiang "Meiguo de 'liang zhi mao' guoji luntan" ["The Two Anchors" of the U. S. (International Forum)], *Renmin ribao [People's Daily]*, Beijing, August 6, 1996, p.6.
- 宋偉「試論澳大利亞的印太關係概念與戰略路徑選擇」『上海交通大學學報(哲學社會科學版)』第24卷第2号(2016年)、頁13~22。

- Song, Wei, “Shilun aodaliya de yintai tixi gainian yu zhanlue lujing xuanze” [Analysis of Australian Concept of Indo-Pacific System and Options for Strategic Path], *Shanghai jiaotong daxue xuebao (zhexue shehui kexue ban)* [Journal of SJTU (Philosophy and Social Sciences)], Vol. 24, No. 2, 2016, pp. 13-22.
- 祁懷高、石源華「中國周邊安全六大挑戰與大周邊外交戰略」張蘊嶺主編『新安全觀與新安全體系構建』（北京：社會科學文獻出版社、2015年）。
- Qi, Huaigao and Shi, Yuanhua, “Zhongguo zhoubian anquan liu da tiaozhan yu da zhoubian waijiao zhanlue” [Six Challenges on China’s Peripheral Security and Diplomatic Strategy of Greater Periphery] in Zhang, Yunling ed., *Xin anquan guan yu xin anquan tixi goujian* [New Security Concepts and Construction of Security System], Beijing: Shehui kexue wenjian chubanshe [Social Sciences Academic Press], 2015.
- 金燦榮、戴維來、金君達「中等強國崛起與中國外交的新著力點」『現代國際關係』第 8 期（2014 年）、頁 1~7、26。
- Jin, Canrong, Dai, Weilai, and Jin, Qunda, “Zhongdeng qianguo jueqi yu zhongguo waijiao de xin Zhuoli dian” [The Rise of the Middle Powers and China’s New Focus in Diplomacy], *Xiandai guoji guanxi* [Contemporary International Relations], Vol. 8, 2014, pp. 1-7 and p. 26.
- 章亦石「中等國傢探索和和平解的新途徑」『瞭望週刊』第 13 期（1987 年）、頁 18。
- Zhang, Yishi, “Zhongdeng guojia tansuo heping hejie de xin tujing” [Middle Power States Seek New Path to Peaceful Reconciliation], *Liaowang zhoukan* [Outlook Weekly], Vol. 13, 1987, p. 18.
- 周方銀「中國與澳大利亞關係的新發展」張蘊嶺、孫士海主編『亞太地區發展報告 2008』（北京：社會科學文獻出版社、2008 年）、頁 305~312。
- Zhou, Fangyin, “Zhongguo yu aodaliya guanxi de xin fazhan” [New Development in Sino-Australia Relationship], in Zhang, Yunling and Sun, Shihai eds., *Yatai diqu fazhan baogao 2008* [Annual Report on Development of Asia-Pacific (2008)], Beijing: Shehui kexue wenjian chubanshe [Social Sciences Academic Press], 2008, pp. 305-312.
- 陳陶然「澳大利亞對『一帶一路』倡議的認知與反應」權衡主編『「一帶一路」倡議與大國合作新發展』（上海：上海社會科學院出版社、2018 年）、頁 29~43。
- Chen, Taoran, “Aodaliya dui ‘yidai yilu’ changyi de renzhi yu fanying” [Australia’s Perception and Reaction to the Belt and Road Initiative] in Quan Heng ed., ‘Yidai yilu’ changyi yu daguo hezuo xin fazhan [The Belt and Road Initiative and New Developments in Cooperation with Major Countries], Shanghai: Shanghai shehui kexue yuan chubanshe [Shanghai Academy of Social Sciences Press, 2018.], pp. 29-43.
- 高飛、李明江「前言」高飛、李明江主編『中國大周邊關係：和平發展 VS 戰略對衝』（新加坡：八方文化創作室、2017 年）、頁 vii~viii。
- Gao, Fei and Li, Mingjiang, “Qian yan” [Preface], in Gao, Fei and Li, Mingjiang eds., *Zhongguo da zhoubian guanxi: heping fazhan VS zhanlue duichong* [China’s Neighborhood Diplomacy: Peaceful Development VS Strategic Hedging], Singapore: Bafang wenhua

chuangzuo shi [Global Publishing], 2017, p. vii-viii.

陶文釗「序言」李凡『冷戰後的美國和澳大利亞同盟關係』（北京：中國社會科學出版社、2010年）、頁1~3。

Tao, Wenjian, “Xu yan” [Preface], in Li Fan, *Lengzhan hou de meiguo he aodaliya tongmeng hou guanxi* [U. S.-Australia Alliance Relations after the Cold War], Beijing: Zhongguo shehui kexue chubanshe [China Social Sciences Press], 2010, pp. 1-3.

韋宗友「澳大利亞的對華對衝戰略」『國際問題研究』第4期（2015年）、頁54~67。

Wei, Zongyou, “Aodaliya de dui hua duichong zhanlue” [Australia’s Hedging Strategy on China], *Guoji wenti yanjiu* [International Studies], Vol. 4, 2015, pp. 54-67.

馬建英「『亞洲版北約』解析」『黨政幹部學刊』第11期（2007年）、頁49。

Ma, Jianying, “‘yazhou ban beiyue’ jiexi” [Analysis of the ‘Asian Version NATO’], *Dangzheng gangbu xuekan* [Journal of Party & Political Cadres], No. 11, 2007, p. 49.

崔越、牛仲君「試論中國的對澳大利亞政策：基于『中等強國』行為邏輯的認知」『和平與發展』第2期（2017年）、頁74~83。

Cui, Yue and Niu, Zhongqun, “Shilun zhongguo de dui aodaliya zhengce: jiyu ‘zhongdeng qiangguo’ xingwei luoji de renzhi” [An Analysis of China’s Policy toward Australia: Based on the Cognition of the Behavior Logic of the Middle Powers], *Heping yu fazhan* [Peace and Development], Vol. 2, 2017, pp. 74-83.

張笑一『中等強國外交行為理論視野下的加拿大北極政策研究』（北京：時事出版社、2017年）。

Zhang, Xiaoyi, *Zhongdeng qiangguo waijiao xingwei lilun shiye xia de jianada beiji zhengce yanjiu* [A Study of Canada’s Arctic Policy Informed by Theories of Middle Power Diplomatic Behavior], Beijing: Shishi chubanshe [Current Affairs Press], 2017.

張海森『中國與澳大利亞建立自由貿易區研究』（北京：對外經濟貿易大學出版社、2007年）。

Zhang, Haisen, *Zhongguo yu aodaliya jianli ziyou maoyi qu yanjiu* [Study on the Establishment of China-Australia Free Trade Area], Beijing: Duiwai jingji maoyi daxue chubanshe [University of International Business and Economics Press], 2007.

張露、黃楫「大周邊戰略下的中澳關係發展」張蘊嶺主編『中國與周邊國傢：構建新型夥伴關係』（北京：社會科學文獻出版社、2008年）、頁383~401。

Zhang, Lu, and Huang, Ji, “Da zhoubian zhanlue xia de zhong ao guanxi fazhan” [The Developments of China-Australia Relations in the Greater Periphery Strategy], in Zhang Yunling ed., *Zhongguo yu zhoubian guojia: goujian xinxing huoban guanxi* [China and its Neighbors: Making New Partnership], Beijing: Shehui kexue wenjian chubanshe [Social Sciences Academic Press], 2008, pp. 383-401.

張慧中、趙益普「李克強同澳大利亞總理莫里森舉行第六輪中澳總理年度會晤」『人民日報』（北京）、2018年11月15日、頁3。

Zhang, Huizhong and Zhao, Yipu, “Li keqiang tong aodaliya zongli molisen juxing di liu lun Zhong ao zongli niandu huiwu” [Li Keqiang and Australian Prime Minister Morrison

- Meets for the Sixth Round Dialogue of China-Australia Prime Ministers], *Renmin ribao [People's Daily]*, November 15, 2018, p. 3.
- 曾繁強「『小人之心』是澳『恐華』癥結」『人民日報（海外版）』（北京）、2018年4月3日、頁10。
- Zeng, Fanqiang, “‘Xiaoren zhi xin’ shi ao ‘kong hua’ zhengjie” [‘The Narrow Mind’ is the Crux of Australia’s ‘Fear of China’], *Renmin ribao [People’s Daily overseas edition]*, April 3, 2018, p. 10.
- 喻常森、常晨光「中澳關係面面觀：寫在中澳建交40周年之際」常晨光、喻常森主編『中澳關係大趨勢：利益共同體的構建與展望』（廣州：中山大學出版社、2012年）、頁37～54。
- Yu, Changsen and Chang, Chenguang, “Zhong ao guanxi mianmian guan: xie zai zhong ao jianjiao 40 zhou nian zhi ji” [Comprehensive Survey of China-Australia Relations: Writing at the 40th Anniversary of the Establishment of Diplomatic Relations between China and Australia] in Chang, Chenguang and Yu, Cahngsen eds., *Zhong ao guanxi da qushi: liyi gongtongti de goujian yu zhangwang [China-Australia Relations: towards a Community with Shared Interests]*, Guangzhou: Zhongshan daxue chubanshe [SunYat-Sen University Press], 2012, pp. 37-54.
- 賈慶國、侯穎麗「走嚮平等互利：冷戰結束以來的中澳關係」『國際政治研究』第3期（1999年）、頁57～64。
- Jia, Qingguo and Hou, Yingli, “Zou xiang pingdeng huli: lengzhan jieshu yilai de Zhong ao guanxi” [Heading for Equal Mutual Benefit: China-Australia Relations after the End of the Cold-War], *Guoji zhengzhi yanjiu [Studies of International Politics]*, Vol. 3, 1999, pp. 57-64.
- 閻學通、齊皓等『中國與周邊中等國家關係』（北京：社會科學文獻出版社、2015年）。
- Yan, Xuetong and Qi, Hao et. al., *Zhongguo yu zhoubian zhongdeng guojia guanxi [Quantitative Study of the Relations between China and its Neighboring Middle Powers]*, Beijing: Shehui kexue wenjian chubanshe [Social Sciences Academic Press], 2015.
- 錢皓「中等強國參與國際事務的路徑研究：以加拿大為例」『世界經濟與政治』第6期（2007年）、頁47～54。
- Qian, Hao, “Zhongdeng qianguo canyu guoji shiwu de lujing yanjiu: yi jianada wei li” [Middle Power Nations and their Approaches to International Affairs], *Shijie jingji yu zhengzhi [World Economics and Politics]*, Vol. 6, 2007, pp. 47-54.
- 薛偉娟『試論後冷戰時代加拿大的人類安全理念及其結構主義外交實踐』天津師範大學碩士論文（天津：2006年）。
- Xue, Weijuan, “Shilun hou lengzhan shidai de jianada de renlei anquan linian ji qi jiegou zhuyi waijiao shijian” [Essay on Canadian Human Security Concept and Constructivism Diplomacy and Practice after the Cold-War Era], Tianjin shifan daxue shuoshi lunwen [Master’s Thesis at Tianjin Normal University], Tianjin, 2006.

嶽小穎『從「保障安全」到「提昇地位」：第二次世界大戰後澳大利亞對美國追隨政策之分析』（上海：上海社會科學院出版社、2013年）。

Yue, Xiaoying, *Cong 'baozhang anquan' dao 'tisheng diwei': dai er ci shijie dazhan hou aodalaiya dui meiguo zhuishui zhengce zhi fenxi [From 'Ensuring Security' to 'Raising Status': The Analysis on Australia's U. S. Toeing-Policy after the World War II]*, Shanghai: Shanghai kexue yuan chubanshe [Shanghai Academy of Social Sciences Press], 2013.

戴維來『中等強國崛起與國際關係的新變局』（北京：中央編譯出版社、2017年）。

Dai, Weilai, *Zhongdeng qianguo jueqi yu guoji guanxi de xin bianju [The Rising of Middle Powers and the Great Change of International Relation]*, Beijing: Zhongyang bianze chubanshe [Central Compilation and Translation Press], 2017.

鍾聲「澳方對華認知須從事實出發」『人民日報』（北京）、2017年12月11日、頁3。

Zhong Sheng, "Ao fang dui hua renzhi xu cong shishi chufa" [Australia's Views on China Must Be Based on Reality], *Renmin ribao [People's Daily]*. Beijing, December 11, 2017, p. 3.

"Address to the East Asia Forum in Conjunction with the Australian National University, Advancing Australia's Global and Regional Economic Interests," Department of the Prime Minister and Cabinet, March 26, 2008, <http://pmtranscripts.pmc.gov.au/release/transcript-15823>.

"China Warns Australia over Hostile Sentiment," People's Daily Online, April 20, 2018, <http://en.people.cn/n3/2018/0420/c90000-9451678.html>.

"Joint Press Conference with Chinese Foreign Minister," The Hon Stephen Smith MP, February 5, 2008, https://foreignminister.gov.au/transcripts/2008/080205_jpc.html.

"Open Letter on Harassment Campaign against Anne-Marie Brady," Synopsis, December 5, 2018, <https://sinopsis.cz/en/open-letter-on-harassment-campaign-against-anne-marie-brady-2/>.

"The Strategist Six: Chen Yonglin," The Strategist, June 5, 2017, <https://www.aspistrategist.org.au/strategist-six-chen-yonglin/>.

Bisley, Nick, "Australia Navigates Sino-Japanese Competition: Engaging, Binding and Hedging," in Jeffrey Reeves, Jeffrey Hornung and Kerry Lynn Nankivell (eds.), *Chinese-Japanese Competition and the East Asian Security Complex: Vying for Influence* (New York: Routledge, 2017), pp. 143-158.

Bowe, Alexander, "China's Overseas United Front Work: Background and Implications for the United States," U. S.-China Economic and Security Review Commission Staff Research Report (Washington D. C.: U. S.-China Economic and Security Review Commission, 2018).

de Swielande, Tanguy Struye, Vandamme, Dorothee, Walton, David and Wilkins, Thomas (eds.), *Rethinking Middle Powers in the Asian Century: New Theories, New Cases* (New York: Routledge, 2018).

East Asian Bureau of Economic Research and China Center for International Economic Exchanges, *Partnership for Change: Australia-China Joint Economic Report* (Canberra: Australian National University Press, 2016).

- Emmers, Ralf and Teo, Sarah, *Security Strategies of Middle Powers in the Asia Pacific* (Melbourne: Melbourne University Publishing, 2018).
- Fels, Enrico, *Shifting Power in Asia-Pacific? The Rise of China, Sino-US Competition and Regional Middle Power Allegiance* (Cham: Springer, 2016).
- Garnaut, John, "Australia-Japan Military Ties Are a 'Quasi-Alliance', Say Officials," *The Sydney Morning Herald*, October 26, 2014, <http://www.smh.com.au/national/australiajapan-military-ties-are-a-quasi-alliance-say-officials-20141026-11c4bi.html>.
- Gill, Bates and Schreer, Benjamin, "Countering China's 'United Front'," *The Washington Quarterly*, Vol. 41, No. 2 (Summer 2018), pp.155-170.
- Gilley, Bruce, "China's Discovery of Middle Powers," in Bruce Gilley and Andrew O'Neil (eds.), *Middle Powers and the Rise of China* (Washington, D. C.: Georgetown University Press, 2014), pp. 45-62.
- Gilley, Bruce and O'Neil, Andrew, "China's Rise through the Prism of Middle Powers," in Bruce Gilley and Andrew O'Neil (eds.), *Middle Powers and the Rise of China* (Washington, D. C.: Georgetown University Press, 2014), pp. 1-22.
- Greene, Andrew, "Australian Warships Challenged by Chinese Military in South China Sea," ABC, April 20, 2018, <https://www.abc.net.au/news/2018-04-20/south-china-sea-australian-warships-challenged-by-chinese/9677908>.
- Hamilton, Clive, *Silent Invasion: China's Influence in Australia* (Melbourne: Hardie Grant Books, 2018).
- He, Baogang, "Collaborative and Conflictive Trilateralism Perspectives from Australia, China, and America," *Asian Survey*, Vol. 54, No. 2 (March/April 2014), pp. 247-272.
- Ikenberry, G. John, "Between the Eagle and the Dragon: America, China, and Middle State Strategies in East Asia," *Political Science Quarterly*, Vol. 131, No. 1 (2016), pp. 9-43.
- Lei, Yu, "China-Australia Strategic Partnership in the Context of China's Grand Periphery Diplomacy," *Cambridge Review of International Affairs*, Vol. 29, No. 2 (2016), pp. 740-760.
- Liff, Adam P., "China and the US Alliance System," *The China Quarterly*, Vol. 233 (March 2018), pp. 137-165.
- Liu, Weihua, and Hao, Yufan, "Australia in China's Grand Strategy," *Asian Survey*, Vol. 54, No. 2 (March/April 2014), pp. 367-394.
- Mackerras, Colin, "Australia-China Relations at the End of the Twentieth Century," *Australian Journal of International Affairs*, Vol. 54, No. 2 (2000), pp. 185-200.
- Malik, Mohan, "Australia, America and Asia," *Pacific Affairs*, Vol. 79, No. 4 (Winter 2006-2007), pp. 587-595.
- Sales, Leigh, "Hillary Clinton Warns of Chinese Influence on Australian Politics," ABC, May 14, 2018, <http://www.abc.net.au/news/2018-05-14/hillary-clinton-warns-of-chinese-influence-in-australia-politics/9754928>.
- Tow, William T. and Hay, Leisa, "Australia, the United States and a 'China Growing Strong':

Managing Conflict Avoidance,” *Australian Journal of International Affairs*, Vol. 55, No. 1 (2001), pp. 37-54.

Ungerer, Carl, “The ‘Middle Power’ Concept in Australian Foreign Policy,” *Australian Journal of Politics & History*, Vol. 53, No. 4 (December 2007), pp. 538-551.

Yuan, Jingdong, *A Rising Power Looks Down Under: Chinese Perspective on Australia* (Canberra: Australian Strategic Policy institute, 2014).

